

ルルドの丘

2020

1月

No.46



社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家 医療型障害児入所施設・療養介護

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所こころ

訪問看護あんな



めぐみ

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします。 ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします。

みことば

今日、起き上がるのに
手を貸してほしいと求めている多くの人に、
あなたが勇気を与えられるのです。

教皇フランシスコ 来日のことば



きらりん

社会参加

文化祭に出演☆

11月10日、隣接する障害者支援施設潔き聖母の家の文化祭に、恵の聖母の家の車椅子ダンス「チェリーズ」の3名が出演しました。ぽかぽか陽気の温かい秋空の下で、日頃練習している車椅子ダンスを披露しました。ダンスの曲名は、DREAMS COME TRUEの「あなたとトゥラッタッタ」です。可愛らしいメロディーにあわせて、車椅子の利用者さんが右や左、前や後ろに動いて、オーガンの動きを楽しみながらのダンスでした。少し緊張した様子もみられましたが、ご家族や会場のお客さんと一緒に踊ることができました。ステージを降りて、ご家族の所に行くと、緊張もほぐれ、その日一番の笑顔がみられました。思い出に残る、秋の一日を過ごすことができました。



保育士 後藤 祐子

野津町チャリティーコンサートに出演☆

11月24日、野津中央公民館で行われた野津町チャリティーコンサートに、ひかりの大地の利用者で編成している音楽クラブ「タージリン」の7名が出演しました。タージリンは、毎月1回、病棟ホールで練習をしています。今年度は福山雅治さんの「糸」とミスターチルドレンの「ハナビ」という曲を練習してきました。チャリティーコンサートへの出演は2年振りです。前日は眠れない方や、当日も緊張して不安そうな様子の方がいました。当日はあいにくの雨でしたが、会場は大勢の観客でいっぱいになりました。タージリンのメンバーも準備をする間に、緊張が和らいで、演奏する楽しみへと変わって、生き生きとした表情になりました。そして演奏本番になると、メンバーはそれぞれの楽器、太鼓やツリーチャイム、シンバルを力いっぱい鳴らしました。演奏者も支援者も、笑顔で一緒にリズムをとって楽しんで演奏することができました。演奏後はたくさんの拍手をいただき、みなさん、満足気な表情がみられました。今回、音楽クラブのメンバーが地域交流に参加できたことは、これからの活動意欲につながると思います。



保育士 加藤 昭子

※表紙写真は、あゆみの広場が作ったミニツリーです。よくみると、干支のねずみさんがいるようです。

巻頭言

施設長

佐藤 圭右

去る十一月十日、中津市民病院副院長是松聖悟先生他のみなさんのご尽力の元、大分県立病院で、医療的ケア児の保護者の方を主な対象とした、令和元年度第二回大分県小児在宅医療講習会が開かれました。そこで、全国医療的ケア児者支援協議会親の部会部会長の小林正幸さんのお話を拝聴させていただきますました。

その時に自分が司会をさせていたいただきましたが、その時の演者紹介を巻頭言とさせていただきます。

☆ ☆

それでは、小林正幸さんに基調講演をいただきたいと思えます。

私は、臼杵市野津町にある、重症心身障害児者施設恵の聖母の家の佐藤圭右と申します。

小林さんのご講演の前に、長くなりますが、なぜ、小児在宅医療講習会に親御さんに参加していただいたかというところを、実際の重症児のお母さんである北浦雅子さんを、重症児を守る会の歴史とともにご紹介させていただきます、ご説明させていただきます。

北浦さんは、戦後すぐの昭和二十一年九月に尚(ひさし)さんを次男として授かりました。しかし、翌年の四月に尚さんは突然けいれんを発症し、そ

れが数時間続いたそうです。診断は種痘後脳炎。そこから重症児の親としての北浦さんの活動が始まります。

その当時は、戦争が終わったばかりで、児童福祉法が昭和二十二年十二月に制定された時代でした。それにより、ちょうど東京の日赤病院小児科の小林提樹先生もその日赤病院内に乳児院を設けました。そこには多くの障害児も押し寄せるようになりました。

その後、昭和三十年代が始まると、経済発展を願って、みんなが懸命に働く時代になりました。それだけに、弱い人や障害のある人に対する偏見が強くなり、昭和三十一年、行政当局は重度障害をもつ入院児の保険診療の停止などを通告しました。これに対し、小林提樹先生は全国の福祉の会議などで現状を訴えました。

それでも昭和三十五年になると、ジョン・F・ケネディ米国大統領が障害者の積極的な政策を進めたこともあり、日本でもその影響が広がり、精神薄弱者福祉法が、身体障害者福祉法に遅れること十年で制定されました。

その間、「重い障害児を守る価値はあるのか」などの辛辣な声が挙がる中で、北浦さんは十人余りの全国の保護者の方と一緒に、「この子たちはひたむきに生きています。この命を守つ

てください」と訴え、厚生省や大蔵省、議員会館を回ったそうです。多くの官僚や政治家には無視されたそうですが、一緒に涙を流してくれる政治家もあったそうです。その結果、昭和三十六年に重症心身障害児療育研究委託費として初めて国からお金が出ました。

昭和三十八年には、二分脊椎の娘に福祉援助が何も得られなかった作家の水上勉さんが「拝啓 池田総理大臣殿」という文章を中央公論に投稿し、福祉国家とは何か?と問題提起をし、大きな反響を呼んだそうです。

北浦さんらは、小林提樹先生の勧めもあり、昭和三十九年六月、全国重症心身障害児者を守る会を結成しました。昭和四十年の第二回全国大会では、その当時の佐藤栄作総理大臣の代理として出席された橋本登美三郎官房長官が、重症児の親御さんたちの悲痛な叫びを聴いて、用意された総理大臣の祝辞を演台の脇に置き、「みなさんの悲しみを悲しむとし、不幸を不幸として受け止めるだけの愛情が、我々政治家にはなかったのではないのでしょうか。総理の代理として、予算の面に対しても飛躍的な措置をすることが、皆さんに報いる道だと思います。」と涙声で話される一幕がありました。その

翌年から始まった重症児に対する施策が、現在につながっています。

重症心身障害児者は、その当時の精神薄弱者福祉法と身体障害者福祉法はざまに置かれ、置き去りにされていました。今の医療的ケア児も、重症心身障害児には該当せず、知的障害児の福祉サービスでは不十分すぎる状態にあると思います。

世論の広がりやタイミングも必要ですが、やはり、親御さんの困りを直接行政や立法府に訴えることで、物事が大きく動くことはあると思います。

本日も講演いただく小林正幸さんは、医療的ケア児のお父さんとして、政府に意見を述べられており、本日はしている親御さんの活動の指針になる方ではないかと思っております。

小林さん、ご登壇ください。長くなりましたが、小林さん、一人の医療的ケア児のお父さんとして、思いのたけを十分お話くださいますようお願いいたします。

☆ ☆

小林さんのお話は自分がここで書けるようなものではありません。ぜひその熱い思いを、より多くの人に聴いていただけるような機会を、再度画策したいと考えております。

▼写真は昨年の室内レクで用いたボトルキャップで作った帽子です。今年もたくさん活動ができますように。





▼各部署の声です。今年度の目標は「[親愛]—親の心のような与える愛を—」です。

床 心理課



利用者さんとの作品づくり

臨床心理士 木戸 志織

ある男性利用者さんとの心理セッションは制作活動が中心です。昨年は、園の行事にご本人がデザインしたキーホルダーやマグネットを展示しました。

これまで、この方とは過去のできごとや体験をお話ししたり、感情に焦点を当てて解決策を考えたり、様々な方法で関わってきました。ご本人の「心」や「関心」、「夢」と向き合ううちに、「手が自由に動いたなら表現したいと思っているものがある」「代わり形にして欲しい」というご本人の希望にたどり着きました。「隙間があつて物足りないです」「ここにも星を置きましょう」「女性は花が好きだと思つたので」など、「ご自身のイメージや好みを言語化していただし、それにビーズや色を忠実に載せていくのが私の役割です。」

最初はパソコンソフトを使って写真を張り合わせ、完成度の高いイラスト（カラーシユ）を作ることから始めました。ご本人にとつて、話した通り・想像通りに作る事が重要でしたが、二年、三年と続くうちに多少の失敗や想像と違うできあがりも許容できるようになりました。ご本人なりにデザインをアレンジするゆとりも生まれ、内容もレジンを使った立体作品へと発展していきました。

制作活動を始めてから四年目を迎えた昨年十月には、私には思いつかないような構図や配色のきらびやかなキーホルダーがたくさん完成しました。そしてハロウィン当



日に病棟ホールで作品を販売し、たくさんの方にご購入いただきました。利用者さんの手となり、自己表現を支える中で、『初めてのことでも支援者と一緒に挑戦してみたいという意欲』『できないと諦めていたことが叶う満足感』など、ご本人の心境の変化を一緒に感じる事ができました。作品を通して、ご本人が想像しデザインする世界がどれほど色彩豊かでオリジナリティに溢れているのか感じていただけたら嬉しいですよ！

栄養課



愛犬との六年

管理栄養士 角井 春菜

昨年の四月より恵の聖母の家で管理栄養士として働いています。家族や職場のスタッフに支えられ、早くも八ヶ月が経つとしていきます。

一昨年の夏に第二子を出産し、初めての子育てを経験している真最中。子どもは本当に可愛く、毎日楽しみながらも仕事と家事、育児に奮闘している毎日です。

それから、我が家には可愛い息子とともにフレンチブルドッグのちっぷ(♂)がいます。出会いは六年前、一人暮らしをしていた頃にふらっとよつた行橋のペットショップで痩せ細つてこちらをにらみつける犬がいました。なんかこの子気になる...と私は何度かそのペットショップへ通い、悩みに悩んだ末、最後はもう勢いです。「えい、飼っちゃえ！」とその子を飼うことに決めました。

一人暮らしの狭いアパートに犬を迎えられるのは簡単な事ではなかったです。とにかく元気がよく、サークルからジャンプをし、出して遊んでと訴える。自分のうんちを踏みつけてそのまま寝ている...なんてことがよくありました。私も飼うと決めた以上は根気強く、愛情たっぷり育てていきました。

フレンチブルドッグは短頭種といって、鼻が短く鼻の通りの細い犬です。夏の暑さに非常に弱く、散歩にでるときは朝方の早い時間か夕方の日が沈んだ時間を選ばないと、すぐ息があがってしまいます。寝ると

きには人間のような低音のいびきをかいて寝ます。表情も豊かです。そんなちっぷにはたくさん癒してもらいました。息子が生まれ、たくさんの我慢をしたと思います。最初は子どもとうまく関係が作れるか不安でしたが、ちっぷは息子に優しく、手を出すことはありません。時にはおもちの取り合いをしていて兄弟のような関係です。これからふたりともすくすく育ってくれることを祈ります。





看護課



私の癒し

看護師 藤原 恵里

今年はいよいよオリンピックの年ですね。昨年から、色々な競技種目で、日本の代表選手の選考大会が開かれています。マラソンでも、オリンピックの日本代表になるべく、昨年からは厳しい戦いが続いています。いろいろな人がテレビや浴道で応援する姿をみますが、私としては、マラソンを観る楽しみは、今一つわからないところがあります。

では、私自身何が好きかというと、「潜る」ことがとても好きです。津久見に住んでいたのですが、海にもたくさん泳ぎに行っていました。小学生時代の夏休みは毎日学校のプールに行っていました。青江ダムなどで泳いだり、潜ったりしていました。今でも、月に数回、潜りに行っています。どこに行っているかというと、三重町の大原体育館、そして佐伯市の堅田にある体育館に行っています。

佐伯市のプールは月曜日が閉館、火曜日は大原が閉館なので、自分が休みの日に開館している施設に合わせて利用しています。佐伯市は三百五十円、三重町は三百二十円で、二時間制限です。大原体育館は改装前から利用しています。

改装前は、大きな窓が天井にあり、晴れた日には光が入って、水面の波が光って、それが淡いブルーに塗られたプールの底に反射していました。私はミラー型の水中眼鏡を使っていて、それを通すと、ますますプールの底がきれいに見えるので、潜るのが



ますます好きになっていました。

どれくらい潜れるかなと思い、二十五メートルのプールで潜ってみると、二十メートルを超えるくらい行けました。堅田のプールは屋外にもプールがあるので、夏は家族で楽しんでいます。屋内のプールは、大原と違い、底の色も濃く、どちらかというと室内が暗めなので、苦手に感じています。

現在は、家庭のこともあつて、なかなか利用できていませんが、今後も自分の楽しみとして、利用していきたいと思っています。

生活福祉課



ボランティアの

皆さんに感謝

児童指導員 丸山 久幸

入職して三十年経ち、ボランティアの受入れに二十五年程携わりました。入職した昭和六十三年頃は、親子ピクニックや運動会など施設の行事の準備は保護者の方と一緒にやっていました。ご家族も若く、「めぐみ会」の役員さんが中心でした。車椅子の運搬や運動会の競技の準備、補助、片付けなどを、職員と一緒にやっていただきました。

平成八年には野津高校に福祉科ができました。これ以降、地元の中学や高校との繋がりが深くなっていきました。施設（重い障がいを持った人が、同じ地域で暮らしている）のことを知って貰うために、ボランティアの協力を学校にお願いし、ボランティアの受入れを始めました。当時は、四、五人程の受入れで、用具や会場の準備・片付けのお手伝いを主に行っていたきました。

平成十四年以降は、短大や看護学校、専門学校の実習生受入れが多くなり、それと同時に、ボランティアの幅も広がりました。保育士、看護師やリハビリテーションで実習に来られた学生は実習の経験もあるので、行事では利用者の付き添いや車椅子移動の直接介助をお願いすることができました。ご高齢となられたご家族も、利用者介助の負担が減り、ゆつくりと観覧を楽しめるようになりました。

一方、利用者も学生との触れ合いに喜ばれています。平成二十年からは、人形劇団マーブル（別府大学短期大学部初等教育

科）、そして傾聴ボランティア（臼杵市）とのつながりができ、それは現在も続いています。平成二十二年度は施設行事に九団体（コーラス、吹奏楽団体を含む計百二十名）、ボランティア公演に二団体（人形劇団マーブル、榎の実少年少女合唱団計八十八名）、余暇活動（アニマルセラピー・傾聴ボランティア・夏の体験ボランティア）に十六団体計二百六十人のボランティアが来てくれました。

平成二十六年三月に野津高校福祉科は閉校になりましたが、中学の時にボランティア活動をした学生が、臼杵高校や大分南高校（福祉科）へ進学して、ボランティア活動に毎回参加してくれる繋がりも図れています。ボランティア経験を機に就職希望に繋がる支援をこれからも推進したいと思っています。令和元年度も毎回二十名の学生の応募がありました。

ボランティアの皆さんが、少しでも活動しやすい環境や体制を整え、利用者との交流や体験を通し、思いやりや助け合い・やりがいを見つめられるお手伝いをさせていただこうと思います。ボランティアの方からの感想の一部を十一頁に掲載しています。是非、ご一読下さい。



10月3日～4日 第30回重症心身障害療育学会学術集会

新潟県長岡市のホテルニューオータニ長岡で開かれました。この学会は、重症心身障害児者の療育経験を有する者が、日常の療育内容の研究発表を行い、知識技能の向上を図り、もって重症心身障害児者療育事業の向上・発展に寄与することを目的として、81題の演題が発表されました。また、「音・刺激の入力とその効果」と題して、和島トールモンド 齋藤篤先生による特別講義が開かれました。演題では、在宅、地域、リハビリテーション等の発表がありました。今回の発表では、専門職以外の内容もあり、学会が療育の幅を広くした印象を受けました。いろんな視点に目を向けることも大事だと感じた学会でした。この学会では、当施設から2演題発表させていただきました。ご質問、ご助言をありがとうございます。



10月10日～11日 第23回全国重症心身障害日中活動支援協議会

北海道札幌市のホテル札幌ガーデンパレスで開かれました。この協議会は、「重症心身障害児・者の日中活動支援を行う全国の社会福祉施設が、業務遂行のために必要な情報交換、問題の協議、施設の取り組み報告等を通じて、在宅重症心身障害児・者の福祉増進に寄与する」ことを目的としています。プログラムは、行政説明、分科会等の形式で進められ、医療的ケア児の支援では、現状報告、そして療育活動に関して、支援員に高い能力が求められている等、在宅で生活されている方々のニーズがわかる協議会でした。参加された施設から助言もいただきました。今後活かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

10月17日 全体研修(意思決定支援)

厚生労働省から、医療、福祉等の各分野で出されている意思決定支援について、職員全体で研修を通して再確認しました。医療分野では「身寄りのない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」、福祉分野では「障がい福祉サービスの利用にあたっての意思決定支援ガイドライン」に基づいて、各分野の責任者が解説しました。また、今後、人員の不足が予想されている第三者後見人に関して、臼杵市市民後見センター審議会委員の当施設事務部長から、市が行っている「臼杵市成年後見制度利用促進審議会」の説明がありました。利用者の意思決定を支援できるよう、職員が代弁者となれるように努めていきたいと思っております。



7月25日(あゆみの広場・のぞみの丘) 8月8日(ひかりの大地) 夏の集い

「入所利用者が皆で集い、夏の雰囲気を感じる」等を目的とした夏の集いを病棟ホールで開きました。あゆみの広場、のぞみの丘は、大型スクリーンに効果音を交えて、季節に合った読み聞かせを行った後、グループに分かれて、風鈴作り等で楽しみました。ひかりの大地では、大型スクリーンに海の映像と琉球の音楽を流して、また、かき氷やチョコフォンデュ等も用意し、入所利用者皆さんに夏を味わってもらいました。



8月15日 聖母被昇天・故利用者追悼ミサ

入所利用者、通所利用者、地域の方々等、関係者とともに、地域交流ホームで平和の祈りを捧げました。神父さまからは、「74年前、戦争が終わってもソ連で抑留され、辛い生活を送った人たちがいた」「国と国との争いは、大きな歯車のようなもので、一度回り出すと誰にも止められない」という平和を願うお話がありました。



実習生受入れ

「障がい児者に対する医療や多職種連携を学ぶ」を目的に、藤華医療技術専門学校看護学科3年生が2019年5月から9月まで、数班に分かれて恵の聖母の家での実習を行いました。また、別府大学短期大学部初等教育科2年生2名が、8月に2週間、保育士実習を行いました。どちらの実習も、「コミュニケーションのとり方がとても勉強になった」という感想をいただきました。皆さま、実習お疲れさまでした。ありがとうございます。



9月20日～21日 第45回日本重症心身障害学会学術集会

岡山県岡山市岡山コンベンションセンターで開かれました。20日は、今回のテーマである「重症児(者)をインクルーシブな世界の光に」について、旭川荘理事長の末光茂先生による会長講演があり、震災に関するシンポジウム、そして、「重症心身障害児(者)の母親理解と支援について」と題して、姫路大学大学院牛尾禮子氏による教育講演がありました。20日午後からは、川崎医療福祉大学で、衆議院議員野田聖子氏による特別講演「医療的ケア児の母として」が、市民公開講演として開かれました。現在の福祉サービスにおける家族支援には課題があること、そして対策を実施することの必要性を感じた大会でした。当施設からは1演題発表させていただきました。



9月27日 ふるさと訪問

「買物や食事を楽しみ、故郷の話等をしてゆっくり過ごす」を目的に、お出かけしました。天候も良く、他県に住んでいるご兄弟と合流した後は、神社でお参りし、その後、デパートに行ってフードコートでチャンポンを食べました。買物ではハンドタオルを買いました。色々な絵柄がありましたが、ディズニーのハンドタオルを選びました。他に、自分用のスカートの生地を選び、とても気に入った赤色の生地を買いました。買物の後は、お土産を家族に渡して、最近のできごとや近況を伝えて、楽しい時間を過ごしました。



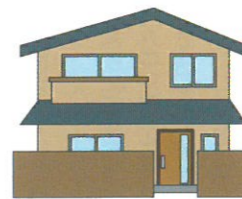
10月16日 施設内レクリエーション

事情により、施設の外での療育活動が難しい方に対して、施設の中で外出をしているような雰囲気で行っています。今回は、あゆみの広場のテラスに簡易テントや日よけ等を設置して「季節を感じる」をテーマに行いました。制作を行う前に、最初は指や身体をほぐす体操、そして秋の音(虫の音)を聴いたり、秋のものに触れたりしました。秋のものに触れる時は、すすきの穂やカボスの香りが苦手な人もいました。制作活動では、ペットボトルのキャップを用いて小さな帽子を作りました。ご家族の参加もあり、皆さん、制作に夢中で、それぞれのアイデアによる個性ある帽子が生まれました。完成した帽子は、詰所前に展示しました。眠ってしまう人もなく、母親や父親と過ごす時間を楽しんでいました。



10月16日 ふるさと訪問

「生活のリフレッシュと家族と楽しい時間を共有する」を目的に行いました。帰宅途中は車内でむせることもなく、落ち着いて過ごすことができました。ご自宅では横になり、ご家族や親せきの方と過ごしました。ご家族や親せきの声かけに目を開けてじっと聞いている様子で、笑顔も見せていました。その後も体調良く、声かけに目を開けたりしながら、穏やかに過ごしました。



11月10日 潔き聖母の家 秋のふれあい会

詳しくは2頁きりりんをご覧ください。

11月24日 吉四六の里 第15回歳末たすけあいチャリティーショー

詳しくは2頁きりりんをご覧ください。



5月19日 ふるさと訪問

「リフレッシュと家族で楽しい時間を共有する」等を目的に、故郷訪問活動を行いました。当日は、ご自宅のある市内のコンビニエンスストアでご家族と合流しました。お店では、からあげとコーヒーを買って一緒に食べました。それから父親の勤務先を見に行ったり、デパートで買い物や、フードコートで食事を楽しんだりして、父親と楽しい時間を過ごしました。



9月19日 パークプレイス大分

大分市の大型複合商業施設に出かけて、買物や食事をしました。買物では、ご家族と一緒にCDや衣類を購入していました。商品を選ぶ時は、ご家族の声かけに返事をし、会話をしながら買い物をしていました。また、自分のものだけでなく、兄弟へのプレゼントを買う人もいました。自分の欲しい物を買う時は、迷いもあったようですが「面白い色が良い」「店員さんに聞いてみる」と、いろいろ本人から提案する様子もありました。時間が気になるのか、よく時間を確認し、アイスクリームを買う時間も他の買物に当てたりしていました。昼食では初めて食べるものにチャレンジして、「今までに食べたことがない」と喜んで食べていました。



9月26日 HIヒロセ

他の利用者は体調により参加を見合わせたため、1名だけの参加となりました。参加者は車に乗る時、胸に手を当てて、「今から乗る!」と嬉しそうにしており、ニコニコ顔でした。車が走り出すと、窓からすれ違う車を見て、口を開けて笑って、とても楽しそうでした。買物の時は、職員が本人の目の前で商品をいくつかみせると、嬉しそうな表情を見せて、商品を選んでいました。カルピスが気に入り、買物の間、ずっと手に持っていました。車の移動や乗車する時が一番楽しかったようでした。今回は看護実習生も一緒に参加しました。





▼各部署の声です。今年度の目標は「[親愛]—親の心のような与える愛を—」です。

児童発達支援センターめぐみ

七月

◆夏遊び

三十日(火)

涼を楽しむことを目的にホール内に①ヨーヨー釣り・魚釣り②水風船・水遊び③金魚すくい④水鉄砲のブースを設け夏遊びを行いました。支援者とともに真剣な眼差しで狙いを定め金魚を掏ったり、水鉄砲で的を射たりと限られた時間内で全部のブースを回ることができた方、なかなか思うように次に進めず足踏みをする方など、いろいろでしたが終始和やかな雰囲気です。充実した一日を過ごすことができました。



◆八月

ポランテア公演 二十三日(金)

戸次にあるカラオケ教室の皆様をお迎えし、公演を開催しました。ハワイアン風の曲に合わせてのフラダンス、昭和を代表するデュエット曲など演出もいろいろで、観ている人を楽しませてくれました。

潮来花嫁さんの曲では生活介護の利用者が曲に合わせて大熱唱し、職員が花嫁に扮し会を盛り上げてくれました。二家族の参

加もあり、楽しいひと時を過ごすことができました。

戸次カラオケ

教室の皆様、ありがとうございました。また是非、お越し下さい。楽しみにしています。

◆九月

現場体験実習 十日~二十日

臼杵支援学校三年生一名の現場体験実習が行われました。午前中は個別活動で、担任の先生とマッサージや姿勢保持など、リラックスすることを中心に過ごしました。午後からは生活介護利用者と一緒に集団活動に参加しました。普段の学校生活とは違うため、環境の変化を感じたり、いろいろな活動を体験するなど、目標に沿った実習となりました。



◆シェーピングムース 二十七日(金)

感覚刺激を楽しむことを目的に、シェーピングムースで感覚遊びを行いました。まず、白色のムースに触れた後、



色付き(七色)のムースに触ってもらいました。視覚で色を楽しむ方、ライムの香りやムースの感触に触れ楽しむ方など、初めて試みる内容でした。

訓練士を中心とした感覚遊びも回を重ねるごとにバリエーションが増えました。今後も期待できそうです。

◆十月

宝さがし 三十日(水)

秋の青空の下、エントランスから駐車場にかけてカプセルを隠して、宝探しのレクリエーションを行いました。カプセルを探るのが上手な方、なかなか見つけられず悔しがると、ワイワイガヤガヤと散策をしながら楽しい時間を過ごしました。

◆めぐみハロウィン仮装発表会

三十一日(木)

毎年恒例となったハロウィン仮装発表会を今年も行いました。ハロウィングッズもいつしか増え、今年は特に魔女に仮装した方が目立ちました。利用者だけでなく職員も一緒に仮装して、賑やかな時間となりました。また、創作活動で作ったハロウィンの贈り物もかわいく仕上がりました。各ご家庭へお持ち帰りができました。



児童発達支援管理責任者 竹尾昭彦

スタッフから

南相馬市にあるNPO法人「こどものつばさ」は、毎年、東日本大震災の影響で自由に過ごせない子どもたちに、夏休みを楽しんで過ごしてもらおうと、全国に受け入れを呼びかけています。昨年八月、私の所属しているグループが、この呼びかけに応じ、中学生四人を臼杵市に入れました。三泊四日で、APUの学生の方と盆踊り体験やイルカ島のショーの観覧、そして黒島で海水浴をしました。「海水浴は十年振り」と言って喜ぶ中学生もいました。その様子を、私は南相馬市の現状を實際にみて、子どもたちをもっと理解したいと思い、現地に行ってきました。

福島県南相馬市には、昨年の十月二十八日から三十日に行くことができました。ポランテア団体に宿をかり、ポランテアにその日の活動を聞いたり、大熊町辺りの被害の状況を見たり、東京電力の廃炉資料館に行ったりしました。東京電力廃炉資料館では最新のツールを使って、事故原因について、「おごりや過信があった」「関係機関との連携不足」「上下関係のコミュニケーション不足」といった説明をしていました。

南相馬市の復興が進んでいない現状をみて、子どもたちが、これからの人生をどのように歩んでいくのか、私たちが、彼ら、彼女らの人生の中に、ちょっとした手助けがもっとできないかな、そう思っていました。

(副施設長 牧山美鶴江)



訓練課



私は作業療法士として利用者の方々と関わらせていただくようになって、もうすぐ二年が経とうとしています。学生時代から重症児者・発達障害のお子さんと深く関わりたいと思うようになり、恵の聖母の家に就職を決めました。まだまだわからないところも多く未熟ですが、周りの先輩方にたくさんご指導いただき、日々多くのことを学んでいます。

昨年の五月には重症児者の方々への水治療法の講習会・九月には脳性麻痺を伴ったお子さんへのボバースアプローチ講習会に参加することができました。この講習会は、主に重症児者の方々に関わる支援者に必要となる知識や技術を学ぶ機会になります。講習会を通して学んだことはどの講習会も新鮮なことが多く、毎回たくさん刺激をもらっています。この講習会の中では、特に私は、ボバースの講師がおっしゃっていた「子どもの限界はセラピストの限界。子どもの可能性は無限大で、その可能性を広げられるかは関わるセラピスト次第」という言葉が非常に強く印象に残っています。

これまでも作業療法士として、一人ひとりのお子さんに関わらせていただく中で、「[い]ずればいんだろ」「もっといい方法は何かないか」と迷うこともたくさんありました。しかし、私が迷っている間にも子どもたちは「自分なりに成長しよう」「頑張ろう」としていることを実感していま

たくさんのお子さんと私たちの関わりを通して

作業療法士 安東 優里

す。子どもたちからも日々新しいことを教えてもらって、刺激を受けています。子どもたちのたくさんのお子さんの笑顔が私の元気の源となっています。

今後様々なお子さんに関わる中で、お子さんの得意なことや笑顔をたくさん引き出す作業療法士になれるよう、周りの先輩方にもご指導していただきながら、さらに努力していきたいと思っています。



＜クリスマスの集いでパブリカを踊りました＞

来育 外保



外来保育は大分県の委託を受けて展開しています。事業内容は子育て相談や子どもの発達年齢に合わせた遊びを提供し、親子と一緒に遊んでもらっています。

外来保育「きつず」は今年で五年目になります。〇〜六歳までの就学前のお子さんや保護者に利用頂いています。基本はお子さんや個別に対応させて頂き、利用回数は、ご家族と相談し、月一〜四回と様々です。利用時間は一時間です。遊びは、親子で触れ合う遊び、手作りの物、市販の物を使って遊んでいます。遊びの中で、保護者と目を合わせて笑ったり、大人の真似をして遊んだり、やりとりした遊びなどとして、保護者の方と共に子どもを見守りながら、発達を促しています。

家庭とは違う遊び方をする子どもの様子をみて、関わり方や玩具の与え方を参考にして下さる保護者の方がいたり、具体的に伝えることで子どもの成長を確認でき、安心して下さる方もおられます。遊んでいる最中、「○○ちゃん、ブツブツって言いましたね」「ボール投げた」など、わが子の成長に気づかれ、子どもを愛おしく思われます。私も共有できることが嬉しいです。

子どもは親が見守っていることで安心して動き回って遊ぶことができ、大人からできたことをほめられ

外来保育「きつず」

保育士 長野 祐子

ることで自信につながり、興味、関心が広がっていきます。「きつず」では親子の触れ合いとたくさんのお子さんの遊びを体験してもらう中で、子育ての第一段階である親子の関係作りを大切にしていきたいです。そして次の段階である協調性や社会性を養う集団生活の橋渡しになればと思っています。子育ては大変ですがそんな時期を過ごす一つの場所として、利用して頂きたいと思っています。親子の時間を大事にできる場所です。気軽に遊びに来て下さい。





保護者の皆様から



療育が始まって

しゅうくんママ

私の息子は4歳でひとりっ子です。2歳を過ぎてても発語がなかったため、市の保健師さんに相談したところ、恵の聖母の家を勧められました。2歳8か月になった10月頃から恵の聖母の家に行き、言語聴覚士と作業療法士から月に2回ずつ訓練を受けて、丸2年になります。「恵の聖母の家」の名前を聞くのは初めてで、正直、不安や抵抗がありました。「自分でも何かしないと」思っていたところでしたが、保健師さんが見せてくれたパンフレットを見ると、障害の施設でもあったので、「通わないといけなかな」「そんなに重いのかな」と思って不安でした。

言語聴覚療法は、最初から今まで、同じ先生に担当して頂いています。うちの子は、得意なことはしますが、「嫌なことは嫌」と頑固なところがあります。また、他のことを気にしないで、マイペースというか、のんびりとした性格です。言語聴覚士の先生は、そんな子どもの性格、特徴等を理解して、本人に合った訓練をしています。作業療法士の先生は、明るく、元気な先生で、

本人も楽しく訓練することができています。また、「こんな時はどのように子どもに関わったら良いのだろう」と私が悩んだ時も、2人の先生に相談すると、例えば、子どもが上手いかわなくて声をあげてしまう時は、「先のことを言ってあげると良いですよ」「見通しを立ててあげると良いですよ」と教えてくれました。私の不安や疑問に、きちんと答えて頂けるので、私自身も大変助かっています。

最初は不安だらけで通い始めた療育ですが、子どもとの接し方や関わり方、家での過ごし方等を先生方にも相談でき、助言もあるので、子どもの成長だけでなく、親も助かり、ありがたいです。

療育には幼稚園が終わってから行くので、日によっては「グズグズ」の日もありますが、リハの先生が上手く対応して下さっています。言葉についても、ゆっくりではありますが、少しずつ会話ができるようになって、親としても嬉しく思います。先生方のおかげで、幼稚園でも色々な体験ができ、楽しく過ごせているようです。

今は就学の準備の療育をしていて、身体づくりが主です。家でも外で遊んで、上半身を作っていくことが目的です。「言語」については、聞かれたことにきちんと答えられるように、言葉の勉強をしています。

療育を受けるかどうか、迷う人もいると思います。親としてたくさん悩み、考えてする子育てです。子どもの成長がゆっくりペースだと、更に悩みます。その中で療育に通い、訓練することは子どもも成長でき、そして親も不安や悩みを相談できるので、家族のためには必ずプラスになると思います。

支援学校訪問教室



命を守る防災教育

～合言葉は「備えあれば うれいなし」～

大分県立臼杵支援学校 訪問担当者

前回お知らせしたとおり、本校は今年度文部科学省の指定を受けて、『児童生徒が想定される災害や危機に際して安全に行動できる力を育てる』を目標に、「命を守る防災教育」に取り組んでいます。12月10日には、関係機関の方々、地域の方々と連携・協力して『公開研究発表会』を盛大に開催することができました。

これまで子どもたちは、防災に必要な知識を持つ臼杵支援学校オリジナルキャラクターのヒーロー『ザ・ボウサイズ』と共に楽しみながら学習をしてきました。ボウサAと『避難行動の仕方』、ボウサBと『備蓄庫の整備』・『非常用持ち出し袋の内容の検討』、ボウサCと『じゃがりこで作る非常食』、ボウサDと『レスキューシートのファッションショー』・『段ボールを使った避難所生活体験』等に取り組みました。また、各学部の強化指導の中でも、防災に関連した内容に取り組みました。

訪問学級の子どもたちは、『レスキューシート体験』、『ホットぼうし体験』、『防災頭巾制作』、『ぼうさい体操』等、『体感する』ことめあてに取り組みました。(写真)

『レスキューシート』を体験したよ！

『レスキューシート』のガサガサする音に、最初はちょっとびっくりしていましたが、先生がかぶっているのを見たり、自分で触ったりして少しずつ慣れ、最後は『レスキューシート』をかぶることができました。その姿を見たスタッフの方から、すかさず「鮭のホイル焼きみたい！」とツッコミが…。その言葉に思わず笑顔♡「暖かいね。災害の時、寒い時は布団の代わりにこれを使おう」と話しました。

まだ、登場していないチームリーダーのボウサEはいつ登場するのか？楽しみです。



★ぴかぴかぴかぴかぴかぴか★

新しく入られたスタッフをご紹介します。①お名前 ②職種 ③お住まい ④趣味 ⑤一言

人事

▼新規採用

八月十二日付

看護師

藤本 有美

▼退職

児童発達支援センターめぐみ
十一月三十日付

看護師

窪田あけみ

Meguminoseibo



①藤本有美 (ふじもと ゆみ) さん

②看護師

③大分市

④パン屋さん、カフェめぐり、ウォーキングです。お勧めのパン屋さんは…、無添加で優しい味のmoko's ベーグルさん。天然酵母で作っているhanakoさん。もちもち、ふわふわで、早朝からお客さんが並び、ひき算さん。天然酵母のmana ブレッドさんにたえさん家のパン、です。機会があればお試しを。

⑤重症心身障がい児(者)の専門施設に勤務するのは初めてで、多々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張っていると思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

おたより

ルルドの丘は、「あ、(知っている職員さんが)面白いこと書いてるなあ」とか、おでかけの欄では、「こんなところに行ったんだ」とか、保護者の方が載っていると、「(こういうことをしてもらったんだ)」「(こういうお楽しみもあるんだなあ)と、感じながら読んでいます。新人さんの紹介欄では、「メンバーが一人増えた!」と喜んでいきます。職員が増えるのは良いものですよね。ルルドの丘の前半には、他の施設見学や研修に行かれた施設長さんの考えが書かれていて、「職員にこういうことができるようになって欲しいんだな」とか、「この通りになるとすごいな」と感心しながら読んでいます。障害の子どもを育てている私の立場からすると、「職員さんも無理をしないでね」と、働き手の立場からみたりしています。しかし、施設長さんの書いているようになると良いなと、やっぱり思っています。在宅も楽なことばかりではないからです。

私の家のご近所さんは、子どもが病院に行ったり、食事や排せつで介助が必要なことは知っていても、姿勢をかえる時に背中をさすったり、おむつ交換の際はお尻がかぶれないように洗っていることも知らないでしようし、様子をみに来るといふこともありません。「私がお子さんをみられたら預かる」と言ってお下さる方もいますが、食事が注入なので、「看護師でないからできない」と言われたりしています。私も、もしもることがあれば、その方に迷惑もかけるので、お願いするわけにもいきません。ヘルパーさんが来られますが、薬を飲ませることができないわけではありません。

訪問看護もケアの時間が決まっています。家に来る方が同じ人ではないので、たまに気をつかうこともあります。先日は、家族の一人が急に悪くなり、子どもの予定を変更したのですが、全てのサービスの事業所に連絡をすることができませんでした。こういう時に、連絡を任せられる存在があったらと思います。緊急時に「ウエルカム!」という所がいくつかあればとも思います。

ルルドの丘を読んで、今後どのような社会になっていくのか、注目していきたいと思えます。(母)

「感想

ボランテア活動をされた学生の方の感想をご紹介します。



▼利用者さんにとって、とてもいい施設だと思っていたので、是非ボランティアに参加したかった。実際に、とても雰囲気がよく、利用者さんたちが楽しそうに活動している所をみれて、いい経験をさせて頂きました。(学生)

▼とても明るい印象で、人と接した時も何も困ることがなくてよかったです。みんなが楽しめ活気があった。(高校生)

▼初めて会うのに、利用者さんも職員さんも、優しく丁寧に教えてくれて、不安なく道具の準備や競技に参加し楽しめました。(高校生)

活動後には、毎回、アンケートで感想をお聞きし、次回の受入れに活かしています。

これまでの多くの方の支援やご協力に感謝します。また今後も、施設への理解とご協力をお願いします。施設の様子や雰囲気を知りたい方は、是非、ボランティアにいらして下さい。お待ちしております。(ボランティア担当 丸山)



◇各ご連絡・ご相談先

| | |
|---------------------------|---|
| 発達外来 (初診受付) …0974-32-7778 | 児童発達支援センターめぐみ…0974-32-7784 保育所等訪問支援・児童発達支援・放課後等デイ・生活介護 |
| 相談支援事業所ころ…0974-32-7788 | 訪問看護あんな・地域連携室…0974-32-7667 |
| 外来保育きつず…0974-32-7778 | 恵の聖母の家 (代表) …0974-32-7770 |

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊦…個別面談
 ㊧…権利擁護・虐待防止部会 ㊨…全体朝礼 ㊩…労働安全衛生委員会
 ㊪…リスクマネジメント部会 ㊫…入浴日

| 2020年1月 | | | 2月 | | | 3月 | | | 4月(計画) | | | | |
|---------|---|------|----|----|-------|----|----|---------|--------|----|---------|---|---|
| 1 | 水 | 正月行事 | 1 | 土 | | 1 | 日 | | 1 | 水 | 新入職員研修会 | | |
| 2 | 木 | 正月行事 | 2 | 日 | | 2 | 月 | ㊫ | 2 | 木 | ㊧ | | |
| 3 | 金 | | 3 | 月 | ㊫ | 3 | 火 | ㊨ | 3 | 金 | ㊫ | | |
| 4 | 土 | ㊫ | 4 | 火 | ㊨◎ | 4 | 水 | ㊫ | 4 | 土 | | | |
| 5 | 日 | | 5 | 水 | ㊫ | 5 | 木 | ㊧ | 5 | 日 | | | |
| 6 | 月 | ㊫ | 6 | 木 | ㊧ | 6 | 金 | ㊫ | 6 | 月 | ㊫ | | |
| 7 | 火 | ㊨ | 7 | 金 | ㊫ | 7 | 土 | | 7 | 火 | ㊨ | | |
| 8 | 水 | ㊫ | 8 | 土 | | 8 | 日 | | 8 | 水 | | | |
| 9 | 木 | ㊧ | 9 | 日 | | 9 | 月 | ㊫ | 9 | 木 | | | |
| 10 | 金 | ㊫ | 10 | 月 | ㊫ | 10 | 火 | ◎㊩ | 10 | 金 | ㊫ | | |
| 11 | 土 | | 11 | 火 | | 11 | 水 | ㊫ | 11 | 土 | | | |
| 12 | 日 | | 12 | 水 | ㊫ | 12 | 木 | ㊪恵アカデミー | 12 | 日 | 復活祭ごミサ | | |
| 13 | 月 | | 13 | 木 | | 13 | 金 | ㊫ | 13 | 月 | ㊫ | | |
| 14 | 火 | ㊫ | 14 | 金 | ㊫ | 14 | 土 | | 14 | 火 | ◎㊩ | | |
| 15 | 水 | ㊩ | 15 | 土 | | 15 | 日 | | 15 | 水 | 施設外療育 | | |
| 16 | 木 | | 16 | 日 | | 16 | 月 | ㊫ | 16 | 木 | ㊪ | | |
| 17 | 金 | ㊫ | 17 | 月 | ㊫ | 17 | 火 | ◎ | 17 | 金 | ㊫ | | |
| 18 | 土 | | 18 | 火 | ◎㊩ | 18 | 水 | | 18 | 土 | | | |
| 19 | 日 | | 19 | 水 | ㊫ | 19 | 木 | ㊫ | 19 | 日 | | | |
| 20 | 月 | ㊫ | 20 | 木 | ㊪ | 20 | 金 | | 20 | 月 | ㊫ | | |
| 21 | 火 | ◎ | ㊦ | 21 | 金 | ㊫ | 21 | 土 | 21 | 火 | ◎ | | |
| 22 | 水 | ㊫ | 22 | 土 | | 22 | 日 | | 22 | 水 | | | |
| 23 | 木 | ㊪ | 23 | 日 | | 23 | 月 | ㊫ | 23 | 木 | | | |
| 24 | 金 | ㊫ | 24 | 月 | | 24 | 火 | ◎ | ㊦ | 24 | 金 | ㊫ | |
| 25 | 土 | | 25 | 火 | ◎ | ㊦ | 25 | 水 | ㊫ | 25 | 土 | | |
| 26 | 日 | | 26 | 水 | ㊫ | 26 | 木 | | 26 | 日 | | | |
| 27 | 月 | ㊫ | 27 | 木 | 行事委員会 | 27 | 金 | ㊫ | 27 | 月 | ㊫ | | |
| 28 | 火 | ◎ | ㊦ | 28 | 金 | ㊫ | 28 | 土 | | 28 | 火 | ◎ | ㊦ |
| 29 | 水 | ㊫ | 29 | 土 | | 29 | 日 | | 29 | 水 | | | |
| 30 | 木 | | | | | 30 | 月 | ㊫ | 30 | 木 | | | |
| 31 | 金 | ㊫ | | | | 31 | 火 | | | | | | |

※予定変更の場合があります。 ※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。

編集後記

2020年が始まりました！子年で、干支の最初です！何といたって今年はオリンピック・パラリンピックが東京で開かれる年。ねずみ年は喜びや楽しみが強まる年と言われています。この大きなイベントを追い風にして、いろいろな差別がなくなり、共生社会の理解がぐんぐん進み、明るい一年になりますように。(S・M)